



# 佐賀大学 広報誌 がちがらす

## 特集

佐賀大学美術館完成

## 研究紹介

イキイキ佐大生

## 留学報告

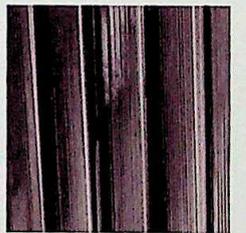
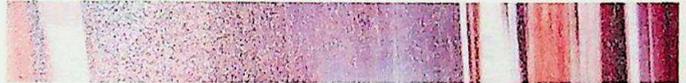
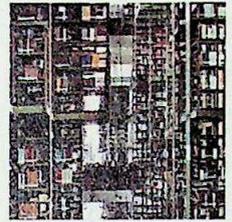
## トピックス

コミュニティ・キャンパス佐賀  
アクティベーション・プロジェクト

## サークル紹介

佐賀大学校友会だより

## お知らせ



## 佐賀大学美術館完成

この秋、佐賀大学統合10周年を記念し、「佐賀大学美術館(SUAM)」が誕生しました。学生や教員、そして地域の人々がつながり広がる場として、芸術はもちろん、文化・科学など様々な分野での活用が期待されています。

本学の新しいシンボルとなるガラス張り純白の空間の佐賀大学美術館について詳しくご紹介します。

## 佐賀大学美術館の船出

平成25年10月2日、佐賀大学美術館は、国立の総合大学としては初の「美術館」として開館の日を迎えました。

旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年の記念事業として建設され、開館後1カ月余りで入場者は二万人を超えました(11月12日現在)。

学内や近隣住民はもちろん、遠くは関西、関東方面からの来館もあり、大人から子どもまでアートを身近に感じ、楽しめる場として市民に受け入れられつつあります。

なぜ、佐賀という地方都市で、芸術大学でもない佐賀大学に、博物館や資料館ではなく「美術館」が建設された

のでしょうか。

平成15年の国立大学法人法の制定以来、大学の自助努力が求められるようになり、大学も個性を持つことが必要とされました。もちろん、佐賀大学も例外ではありませんでした。

そのような時代の移り変わりの中で、

——佐賀大学の特色といえば、美術ではないか——

という声が、学内のみならず学外からも多く寄せられました。

佐賀大学には、遡ると佐賀師範学校から続く60年にわたる美術教育の伝統があり、昭和28年からは九州で唯一の美術・工芸の高等専門教育を行う「特別教科(美術・工芸)教員養成課程」が設置され、通称「特美」と呼ばれて親しま



佐賀大学美術館

れてきました。

総合大学にありながら、教員養成にとどまらない高水準の美術・工芸の教育が行われ、県内外に小・中・高等学校の教員をはじめとし、さまざまな分野で活躍する芸術家や工芸家を輩出してきました。

統合10周年という大きな節目を迎えたとき、佐賀大学に美術館建設を、との声が上がったのはそのような背景があつたからです。

### 地域に開かれた大学

人々に親しまれる、地域に開かれた大学、という佐賀大学の理念に基づき、佐賀大学美術館は、地域の人々と大学を結ぶためのシンボルとして誕生しました。

大学教員によってデザインされた美術館のロゴマークには、「The Saga University Art Museum」の頭文字からSUAM(スアム)という愛称として、今後美術館が親しまれていくことへの期待がこめられています。

美術館は入館料、駐車場ともに無料で、土日・祝日も開館し、一般の方にも利用しやすい環境が整えられています。

また、作品を鑑賞するだけでなく、参加型の企画として、一般の方を対象にしたワークショップや講演会・イベントなどを随時開催していく予定です。



佐賀大学美術館開館記念式典テープカット

### 佐賀大学統合10周年記念事業

開館に先駆け、9月28日には、旧佐賀大学・佐賀医科大学統合10周年記念式典が実施され、新しい正門エリアと美術館が披露されました。

式典では、「佐賀大学の物語」―地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して―と題した佐賀大学の歴史を紹介した映像や、美術館のイメージCMが上映されました。これらは、映像制作を学ぶ学生が制作したもので、会場からは、懐かしい映像やCMの美しさに、感嘆の声が聞かれました。

また、美術館のプロムナードでジャズ研究会の学生による演奏が行われる中、美術館の内覧会が行われ、音楽と芸術を楽しむ趣向が凝らされました。



大学石碑の除幕式

### 美術館と正門エリア

美術館と時期を同じくして整備された正門エリアは、従来のような門扉は存在せず、緩やかな稜線によって大学の内外を区切り、外の世界から美術館、大学内へのアプローチへと続きます。

正門エリアの北東部には、竹之内裕章名誉教授の手による佐賀大学の銘の入った巨石が配置され、その周りには旧制佐高を彷彿とさせる石碑や松の木が植えられています。

そこから美術館を目指して歩みを進めると、右手に存在感のある大きな庇

のバス停が姿を現します。これは、理工学部の学生と教員によって、飛行機の滑走路をイメージしてデザインされたものです。

バス停を通り過ぎると、シャープで洗練されたデザインの美術館とカフェが皆さんを迎えます。こうして順に歩みを進めることで、古くからの歴史を持ちつつ、これから未来へと発展し羽ばたいていく佐賀大学を体感することができます。



正門エリア北東部



スタジオでのワークショップ



ブリッジから

### 美術館施設紹介

2階建ての美術館は、1階部分は吹き抜けになっており、5メートルの天井高とガラス張りの開放的な空間がこの美術館の最大の特徴です。

1階を二つの大きな空間として利用することもできますが、大型可動壁で区切るにより、ギャラリー1、2とスタジオの3室に分けることも可能

で、さまざまな展示形態に対応できます。中でもスタジオは、展示はもちろんのこと、各種の講演会やワークショップなどの制作活動にまで幅広く利用できます。

2階のブリッジからは、これらの展示室の光景を上から見ることができ、違った視点から展示を楽しむことができます。

2階には小展示室と特別展示室の2つの展示室があり、小展示室は映像作品などの展示・上映に必要なプロジェクトが用意されています。

特別展示室は歴史的に価値のある作品や貴重な資料を展示することが可能なつくりになっています。また、幅広く緩やかな階段と2階の通路の壁面には、歴史展示スペースがあり、大学の歴史の紹介ができるようになっています。

この他にも、美術館とカフェを結ぶプロムナードでのミニコンサートなどのイベント、中庭での作品展示やワークショップなどの利用ができます。これらの半屋外空間は室内との一体的な利用が可能です。

### 三つの開館記念特別展

佐賀大学美術館では、三つの開館記念特別展を開催しました。

一つ目の企画は「美術・工芸教室60年の軌跡」と題し、展示を前期と後期に分け、前半の「特美」の育成者たちでは



1階展示室とスタジオ

佐賀大学の「特美」の歴任教員の作品を展示しました。

美術館建設の大きな原動力となった佐賀大学の美術教育の歴史が垣間見られ、油彩画や日本画をはじめとして、彫刻、染織、木工、陶芸など幅広いジャンルの指導者によって制作された代表作が勢ぞろいしました。

後半の「今を創る指導者たち」では、「特美」の後の美術・工芸課程の現役の教員の作品を展示し、今をときめく芸術家としての顔を併せ持つ教員達の手によって新しい美術館の魅力を活かした展覧を試みました。

二つ目の企画展は「だんだんまるまるくようこそだんごむしワールドへ」



「美術・工芸教室60年の軌跡」展



ダンボールで作られた巨大だんごむし

と題し、佐賀大学の学生と教員の主導により、大学の附属幼稚園や附属小学校の子ども達と一緒にだんごむしの住む世界を作り上げました。この企画で

は、一般から募集した子ども達もワークショップに参加し、展示期間中もだんごむしの仲間達や遊び場が増殖していくという、ライブ感を活かす佐賀大学美術館ならではの演出がなされました。

三つ目は、「佐賀大学のルーツをさぐる〜佐賀師範・旧制佐高の時代」と題し、旧制佐賀高等学校、佐賀県師範学校や佐賀県女子師範、青年師範学校から現在へと続く佐賀大学のルーツを、当時の校舎や学生達の様子が分かる写真を用いてパネルで紹介しました。

### 美術館カフェテーブルと椅子プロジェクト

美術館に併設されたカフェ SONES (ソネス)。その屋内のテーブルと、1、2階の中央メインテーブルの椅子は、いずれも学生が制作に携わったものです。

屋内の小テーブルと大テーブルは全て、美術館建設に伴って伐採された「ラクウシヨウ」の木を製材し、文化教育学部美術・工芸課程の木芸教室の学生と教員によって制作されました。指導教員の専門分野が漆工であることから、2階の小テーブルの塗装は拭き漆で落ち着いた雰囲気仕上げられています。

1、2階の中央メインテーブルの椅子16脚は、学生によるデザイン案のコンペを行い、そのデザインをもとに佐賀市諸

富町の平田椅子製作所で製作されたものです。コンペを行うにあたって、同製作所とカフェによる説明会や、諸富町の工場見学などを実施し、椅子の生産工程や完成品、店舗のコンセプトを理解したうえで応募が条件となりました。採用デザインが決定してからは、採用され

た学生と、椅子を使用する側のカフェ、製作者の3者で打合せを繰り返し、最終調整が行われました。カフェの運営は外部業者に委託されましたが、美術館とカフェそれぞれの特色を活かし、互いの魅力を引き出しながら、今後活用されていくでしょう。



学生によってデザインされた椅子と制作されたテーブル(カフェ)

気軽に、時には本格的に、アートに触れ、創作を楽しみ、歴史を感じ、最後はほっと一息、カフェで一休み。今までの美術館の概念にとらわれない佐賀大学美術館に、ぜひ一度お越しください。

開館時間 / 10:00~17:00 (入館は16:30まで)

入館料 / 無料

休館日 / 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)

夏季休館期間: 8/13~15 冬季休館期間: 12/26~1/6

<http://suam102.com/>

佐賀大学美術館では運営のための寄附を募集しています。申込書等は美術館ホームページまたは美術館事務室まで。  
美術館事務室 / 0952-28-8333



※通常夜間開館はございません。

# 宇宙の始まりを探る

## 国際リニアコライダー (ILC) 実験への期待

「物は何からできているのか?」「物質の最小単位は?」という問いかけは、ギリシア時代から現代まで脈々と続けられる人類にとっての普遍的な疑問といえます。20世紀初めに、JJトムソンによる電子の発見、ラザフォードによる原子核の発見により原子の構造が解明され人類の謎は新たな局面を迎えました。量子力学、相対論が確立され、加速器というミクロの世界の探査装置を人類が手にしてからその研究のスピードはさらに加速され、現在は10の<sup>-18</sup>乗m(100京分の1メートル)の世界が相手になっています。今年LHCによるヒッグス粒子の発見がノーベル賞をもたらし、究極の物質であるクォーク、レプトンと、それらの間に働く三つの力(電

磁、弱い、強い)をまとめあげた『標準模型』を構成する粒子が全て実験的に確認されたこととなります。

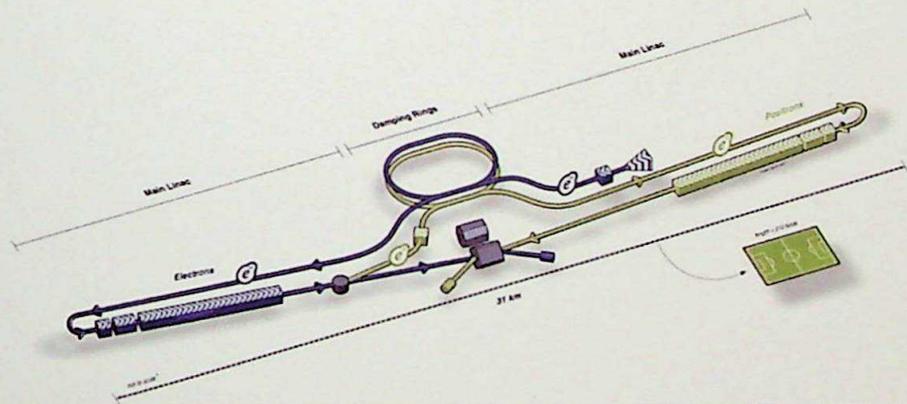
発見されたばかりのヒッグス粒子には、多くの謎が含まれています。ヒッグスは、他の粒子に質量を与えるために導入されましたが、そのメカニズムが検証されていません。我々の周りには至る所、ましてや「真空」さえもヒッグスで埋め尽くされていることとなります。これは19世紀前までその存在が信じられていた「エーテル」と似た状況かも知れません。

国際リニアコライダー(ILC)実験は、これらの謎を解明し、さらなる疑問に対する解決の糸口を提供することが期待されています。何故クォークやレプトンは存在するの

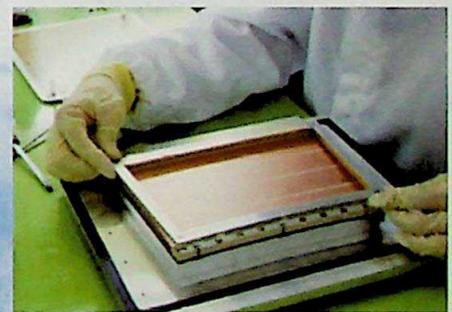
か、力の源は一つなのか(大統一理論)、超対称性は存在するのか、粒子はひもなのか、我々の住む時空間は何故4次元なのか、宇宙の始まりはどうだったのか。私たちの謎は尽きません。

ILCは直線30kmに配置される巨大な加速器で電子(陽電子)を衝突させ高エネルギーの光を創り、ヒッグスや未知の粒子の研究をするための実験施設です(脊振山地は日本の候補地の一つになっていましたが、残念ながら東北の北上山地がより良い立地であると評価されました)。ILCが、日本に建設され、科学技術立国として基礎科学の世界の中心になれることを願っています。

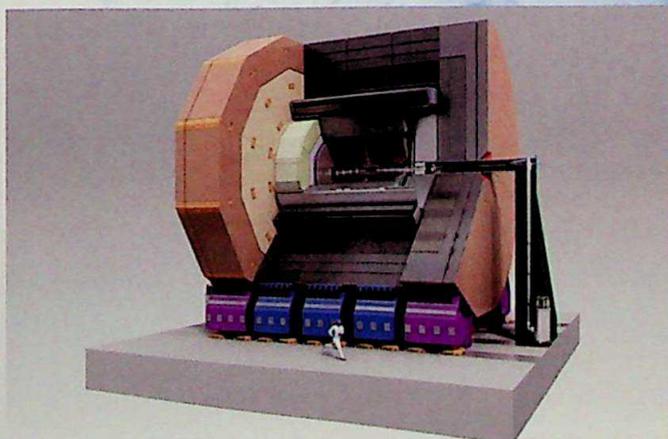
※LHC…Large Hadron Collider(大型ハドロン加速器)の略。CERN(ヨーロッパ合同原子核研究機構)がスイスとフランスの国境付近に建設中の素粒子加速器。



ILC概念図/全長31kmのトンネルに加速器が設置される。中央で電子陽電子が衝突し、その反応を調べる。



飛跡検出器モジュール



ILC実験の検出器(模型)



すぎやま あきひろ  
杉山 晃

工学系研究科物理科学講座  
教授

# 有明海の 環境変動機構の解明と 再生をめざして

有明海は佐賀大学の最も身近にある海で、広大な干潟やムツゴロウをはじめとする独特の生物相で知られています。一方で、近年は様々な環境問題が生じており、諫早湾干拓工事との関係も相まって、大きな社会問題になっています。

我々の研究グループでは、こうした環境問題の解決に貢献することを目指して様々な研究を行っています。例えば、諫早湾の水門を開けたらどのような影響が生じるのか、数値モデルで予測しています。また、筑後川河口沖の観測タワーでは、有明海で唯一、年間を通して気象・水質・流れ等を連続モニタリングし、インターネットで公開しています(<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/COMPAS/>)。

有明海、特にその奥部は、泥色に濁っていることが特徴です。私が主に行っている研究の一つは、こうした濁りの素の懸濁物の動態で

す。大川が流入する有明海奥部では、上層で流出・下層で流入する大規模な循環流が生じています。そのため、強風がない時には、懸濁物は沖から湾奥へ輸送され、湾奥部に集積することを明らかにしました。

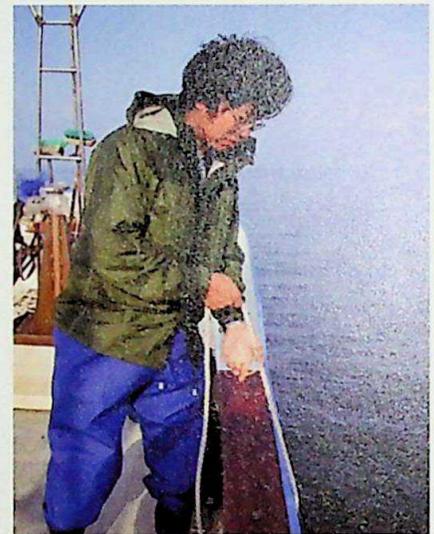
もう一つ力を入れているのは貧酸素水塊に関する研究です。今、有明海の奥部では、毎年のように貧酸素水塊が発生しています。動物の生存に酸素は必須なため、貧酸素水塊ができると多くの貝類などが衰弱・斃死<sup>へいし</sup>します。こうした貧酸素水塊の基本的な形成・変動の機構を解明してきました。そこには上記の懸濁物集積機構も密接に関わっています。今後は貧酸素の根本的抑制策を検討することが研究の大目的です。

漁船で海に出て調査をしていると、スナメリ(イルカの一種)が群れをなして近くを通り過ぎることがあ



はやみ ゆういち  
速水 祐一

低平地沿岸海域研究センター  
准教授



船上からの水質計測の様子

ります。そんな時、有明海はまだまだ豊かな海だと感じます。この海が、諍<sup>あらし</sup>いの海から、地域の違いを超えた内湾の総合的管理のモデルケースになるように、今後とも研究を進めていきたいと思っておりますので、皆さま応援をお願いします。



漁船による流速観測



研究室のスタッフ

—— 本との出会い、本を愛する人との出会い ——

# 附属図書館学生選書委員会「さらりーず」



選書ツアー(ジュンク堂)での集合写真

**読** みたい本をたくさん買ってあげる」。図書館長の稲岡先生の授業を受けていた私は学生選書委員募集の話聞いて少し興味がわき、友達と一緒に学生選書委員会「さらりーず」に参加することにしました。

「図書館に置くべきふさわしい本を・・・」なんて固いことはあまり考えず、「面白そうだから読んでみたい」「この本はオススメだから皆に読んで欲しい」と考えるのも楽しみのひとつ。選んだ本は、その後開かれる学生選書委員会(さらりーずミーティング)で紹介し合います。

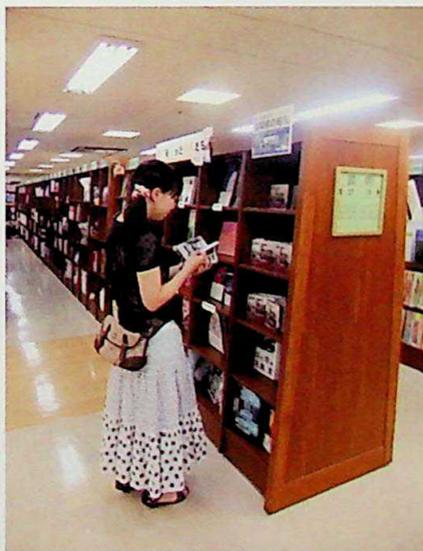
平成25年度の選書ツアーでは福岡市天神の「ジュンク堂」に行きました。カートを押いてカゴ一杯に本が選べるなんて滅多にできないのでワクワクしました(笑)。

ツアーは選書だけでなく博物館や



さらりーずミーティング

他の図書館などの施設を訪れたりもします。今年は今話題になっている武雄市図書館へ足を運びました。私は初めて行ったのですが、かなりオススメです。広々とした空間の中でカフェ気分を味わえたり本を買えたり、本を楽しむ新しいスタイルを満喫できました。気になっていらっしゃる方は是非!



選書中の様子

選書された本は図書館に置かれるのですが、その前にバーコードを貼らなければいけません。実はこのバーコード貼りの作業、体験できるんです。本の貸出や返却をするカウンターの仕事もさせていただけま



ふちのともこ  
潮野 朋子

理工学部数理科学科4年



仕事体験(背ラベルに糊を塗る)



仕事体験(バーコードを貼る)

す。自分の選んだ本がバーコードを貼られて、並べられて、貸出されるのを見ると、つい涙が出そうになります。図書館の職員の方にはいつも支えられてばかりで、感謝してもきれません。

さらりーずの活動を3年間やってきて「自分はこんなに本が好きだったんだ」と気づかされました。私たち学生はもちろん、学校の先生や働くビジネスマン、子供からお年寄りまで本は万人に必要なものです。本との出会い、本の好きな方々との出会いが私の世界観を大きく変えました。

今年も私たちの厳選したオススメの本がたくさん並びましたので、気になったら是非お手にとって下さい。素敵な本と出会い、皆さんにも新しい変化が生まれるといいですね。

# ForS.で農楽しよう!

～学生たちの学びの力で、佐賀を元気に!～

**F**orS.(フォーエス)は、佐賀大学生による農業サークルです。大学生や地域の方に農と食についてもっと知ってほしい、もっと身近に感じてほしいという思いから、平成24年3月に立ち上がり、現在20名で活動を行っています。

ForS.は毎週末、佐賀市富士町の耕作放棄地で活動を行っています。耕作放棄地とは、高齢化や後継者不足などの理由により、農作物が1年以上作付されていない田畑のことを



耕作放棄地を開墾中



裸足で田んぼに入ると気持ちいい!



野菜の植え付け作業

言います。佐賀県でも、この耕作放棄地の面積が年々増加傾向にあり問題となっています。限界集落と呼ばれ65歳以上の高齢者が集落の半分以上を占めている富士町でも、高齢化により農地を手放す農家の方が多くいらっしゃいます。そこで、ForS.は佐賀を元気づけたいという思いから、増加しつつある富士町の耕作放棄地をもう一度開墾し、無農薬の野菜や米を育てています。荒れ果てた耕作放棄地を復活させるのは、とても大変な作業でした。草刈り機で草を刈ったり、耕運機で土を耕したりと生まれて初めての体験でした。無農薬で農作物を栽培しているので、放っておくと草が生えてきます。夏の暑い日の除草作業はとても根気のいるものでした。イノシシやカラスから野菜を守るために試行錯誤を繰り返し、やっと収穫した野菜の味は一生忘れられません。

また、ForS.は自分たちで育てた農作物を、自ら加工して販売も行っています。佐賀大学の大学祭でも大学芋や大葉の焼きそばを販売しました。平成25年11月には、東京で行われたジャパンフードフェスタ2013にて、無農薬の米を販売し完売することができました。



ふじ わら し ほ  
藤原 史歩

農学部生物環境科学科2年

さらに、ForS.は大学生や地域の方に向けて、農と食を身近に感じてもらえるようなイベントも企画、運営しています。季節ごとに田植えや稲刈りなどを行い、多くの方に参加していただいています。取れたての野菜をみんなで食べ、参加者の方と楽しいレクリエーションをしています。農と食、そして佐賀のためにこれからもForS.は頑張ります。



大学祭で大学芋と焼きそばを販売



第1回イベント 農楽しよう!にて 野菜を収穫しました!

## 異文化そして自分への理解を深めた10ヶ月間



私が留学に興味を持ったのは、高校生の頃でした。当時英語がとても好きで、将来は仕事で英語を使いたいと思っていたからでした。

佐賀大学に入学し、なかなか留学への一歩を踏み出せずにいた私がもう一度留学を目指すようになったきっかけは、大学3年生の時です。授業中に留学をした先輩の話聞き、留学することを決心しました。そして、大学院1年の夏、ついにアメリカ・スリッパリーロック大学へ10ヶ月留学しました。

私が留学中に学んだ中でも、特に「自分」と向き合ったことが大きく印象に残っています。学んだ知識と実践と

のギャップなど10ヶ月の間たくさん悩みました。最初のうちは英語もうまく聞き取れず、話すことも出来なくて辛い思いもしましたが、人と比較するのではなく過去の自分と向き合うことの大切さに気づかされました。「今日はここが出来た!」と考え方を変えることで前向きになることが出来ました。

留学中に経験したことは私にとってかけがえのないものです。特に世



界各国に友人が出来たことは一生の宝ものです。私は留学によって、実際に体験することの大切さに気づきました。大学で学んでいる知識を実際に自分の目で確かめたり、経験し

たりすることは非常に重要です。私は異文化理解など学んで行きましたが、いざ自分が異文化のなかに飛び込むと理解できないこともたくさんありました。自分で体験することによって、考え方も深まり、新たな観点から考えることが出来るかもしれません。みなさんも興味があることや好きなことは特に一歩踏み出して、体験してみてもどうでしょうか?ぜひ、一度は外国に行ってみてください!



こうだ みき  
幸田 美咲

教育学研究科教科教育専攻2年  
アメリカ・スリッパリーロック大学

## 報告

## ゼロから始めた国際交流



大学に入学して「国際交流」や「留学」とはかけ離れた生活を送っていた僕が「海外」と初めて接点を持つきっかけとなったのは、3年時の中国のハルビン工業大学での1か月のサマープログラムでした。ただ、その頃は留学したいというより、日々の生活から解放されたいという気持ちが強く、たまたま見た国際課のHPにこのプログラムの募集があったから応募したのです。当時は中国語の授業すら受けたことがなかったので知識はゼロの状態、このプログラムが終わる頃によくクラスメイトに少しの会話ができるようになったレベルでした。それでもこの1か月の経験から、語学、専門分野、将来の面でも「留

学」を視野に入れ、すぐに交換留学の申請をしました。

交換留学先の北京工業大学に留学して最初の3か月は一番下のクラスで地道に中国語を勉強しました。とりあえず同意しておいたり、感想を聞かれても、常に「おもしろかった」などと答える感じから入り、いろいろな人と話してみました。実は案外この方法が良く、友達との会話から表現法や話の展開法や発音など参考になり、急激に成長しました。帰国する頃には一番上のクラスで中国語を勉強できるまでに語学力が上がりました。

語学以外にも専門の授業や学外の授業を受けたり、イベントに参加したりもしました。僕の個人的な意見ですが、留学においてとても重要なことは学内のみの勉強でなく、学内の枠を超えた幅広い範囲での学びのかなと思います。実際に僕の周りではそれぞれが目的をもって日常生活をしていました。約1年間すごく刺激的な生活ができたと思っています。

ここ数年、日中問題について多くのことが取り沙汰されていますが、中国語学習者の数や国の数、中国政府の外交戦略を見る限り、直接的な接触は避けるにしても、間接的には間違いなく中国が関わってくるだろうと考えています。日本や中国には様々な国の優秀な人材が集まってくるわけですから、そんな優秀な彼らとともに力を合わせて社会の発展や充実に貢献していけたらいいと思います。

大学3年の夏が僕の進路を大きく変えたと、振り返って感じています。一度も留学の経験したことない人で足踏みしている人がいたら、短期プログラムでプチ体験やってみよう。



ありの 新  
野 公介

理工学部機能物質化学科4年  
中国・北京工業大学

3年次のスリランカへの10日間の国際交流実習、ここで受けた衝撃が留学をしようと思ったきっかけとなりました。気候や食事や文化はもちろんですが何よりも現地の学生の語学や学術レベルの高さにただただ驚き、私もそのような環境で自分を鍛えたいと思うようになったのです。

現地で受講した授業(マーケティング、コミュニケーション論、組織行動論



等)は全て英語で行われ、意見を求められたりグループワークがあったりと、英語に不安があった私は最初とても苦労しました。さらに「あなたの国ではどうなの?」と聞かれたことに対してうまく答えられず悔しい思いもしました。英語で

## 海外で見つけた日本人としての誇り

の授業は数をこなすにつれ慣れていきますが、知識の面では自ら貪欲に得て、それに対して自分の意見や考えを持たなければなりません。クラスメイトや教授の助けも借りながら必死についていく努力をしました。

日常生活では現地の学生との寮暮らしの中で、生活家電もない、水シャワーに停電・・・日本では考えられないハプニングに見舞われ、日本の当たり前が通じないことに最初は戸惑ったり、苛立ったりと悩まされたものでした。

しかしスリランカという国は人の活気がすごく、また道を行く人がとてもフレンドリー、そしてよく世話を焼いてくれるのでさびしい思いをすることはありませんでした。むしろ日本に帰ってきて人との繋がりがなくさびしく感じたほどです。そしてほとんどの人が日本のことをとてもいい国だと言ってくれます。日本人は素晴らしい!とほめられることも多く、日本人であることを誇りに思うと同時にプレッシャーにも感じたものです。

私はこの留学を通して自分はこういう人間なのだ、こういう風に考える人間なのだと気づくことができました。そして語学や学問だけでなく、日本人としての誇りやどんな環境でもやっていく度胸など多くのことが得られたこと、それが私の留学成果です。



くさ かの べい こと  
日 下 部 桃 子

経済学部経済システム課程4年  
スリランカ・ペラデニア大学

# 留学

私がフランスへの長期留学を思い立ったきっかけは、大学2年生の時に、佐賀大学と提携している中国ハルビン工業大学への1ヶ月間の短期留学を経験したことでした。その時は、単純に海外へ行ってみたいという考えで参加したのですが、中国の学生やそこに集まった世界各国の留學生の勉学への姿勢などを実感した時、私は、なんとなくくだらだと過ごしてきた自分の大学生活に危機感を覚えました。自分を精神的に鍛えるため、また何か自分の強みになるものを持ちたいという思いから、第二言語として履修していたフランス語圏に留学することを決意しました。



私の留学していたブルゴーニュという地方は美食の町とも言われてお

## 多彩な文化や人との出会いから学んだもの



り、大学での授業も、フランス語の他に「ワイン学」や「美食学」など地域色豊かな講義を受講することができ、大変有意義でした。中でも、「演劇」の授業に参加し、各国の留學生と共に学内にある劇場で喜劇を演じたことはとても印象強く残っています。また、EU内ということもあり、休暇を利用して容易にフランス以外のヨーロッパ文化に親しむ機会が多く与えられました。

留学を通して、言語の習得はもちろんですが、自分自身を客観的に見つめることや、相手の気持ちや立場、生きてきた環境を考慮しながら相手の話を聞くこと、助け合いながら生き

ていくことの大切さを学びました。また、フランス人の親友が出来たことも私の中で大きな変化でした。彼女とは留学中の多くの時間を共にし、今でも頻繁に連絡を取り合っています。フランスに留学して良かったと心から思います。

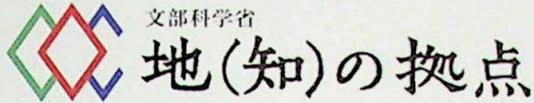
私は、留学生活の中で多くの方に助けられ、その支援は本当に心地よく有難いものばかりでした。この経験を忘れず、今後は、日本において、生活する外国人の方々をサポートしていけるような人材になりたいと思っています。



やま ざき わ かな  
山 崎 和 奏

文化教育学部国際文化課程4年  
フランス・ブルゴーニュ大学

文部科学省「地(知)の拠点」整備事業



佐賀大学・西九州大学共同申請事業

# コミュニティ・ キャンパス佐賀 アクティベーション・ プロジェクト

いがらし つとむ  
五十嵐 勉「コミュニティ・キャンパス佐賀」  
事業実施責任者  
全学教育機構・教授佐賀大学・西九州大学  
コミュニティ・キャンパス佐賀

文部科学省の「地(知)の拠点」整備事業は、大学改革実行プランにおけるCOC(Center of Community)機能の強化の視点から、平成25年度事業(平成25年9月～平成29年度までの5ヵ年)として開始されました。この事業は、大学全体としての地域を志向する教育研究を活性化させ、その成果の還元による社会貢献を通して、地(知)の拠点としての機能を強化する大学を支援するものです。地域を志向する教育プログラムの改革を基盤に、自治体等との地域との実質的な連携によって進めることに特色があります(採択事業数52/申請事業数319)。

佐賀大学と西九州大学の共同申請による「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」は、これまでの両大学における地域を志向した教育研究・社会貢献の実績を基盤に、更なる教育プログラムの改革・改善を踏まえて、地域課題の解決に向けた取り組みを実施するものです。佐賀県、及び佐賀市・神埼市・小城市・唐津市・嬉野市・鹿島市・吉野ヶ里町の6市1町との連携によって、中心市街地・離島・中山間地域の活性化、地域コミュニティの再生、機能性食品の開発を含む地域産業の振興、保健医療・福祉の向上、住民の健康増進、地方公共交通の改善、子どもの教育・子育て支援、環境保全などの課題解決に取り組んでいきます(佐

賀大学7事業・西九州大学5事業の計12事業:内、共同事業7)。

本学においては、全学教育機構のインターフェース「地域・佐賀学」・「環境」コースにおけるアクティブ・ラーニングによる学生参画型の地域創成教育(平成26年度～)、文化教育学部における高齢者と子どものヘルスプロモーション、経済学部における地域公共政策、医学部における「へき地」医療、理工学部における地域空間デザイン、及び農学部によるアグリ医療と機能性食品開発に関わる人材の育成と、地域を志向する教育プログラムを充実させることで、関連する教員による研究・社会貢献の活性化を目指しています。学生に対しては、教養教育・学部専門教育において、講義・フィールドワーク・実験・実習・演習を通して、地域の課題を発見し、その問題解決に主体的に取り組む学修機会を増加させます。

これまでの文部科学省によるGP<sup>※</sup>と本事業の違いは、学長のガバナンスによる「大学全体として地(知)の拠点としての機能を強化する」ことであり、実効性と継続性のある取り組みが必要とされます。本学におけるCOC機能の強化の根幹をなす事業として、学内の全ての教職員と学生の理解、及び地域との主体的な取り組みに期待しています。

里山の再発見学習会の様子  
(唐津市相知町萩野棚田にて)干潟・湿地のワイズ・ユース研究の様子  
(鹿島市新籠海岸にて)握手を交わす佛淵孝夫佐賀大学長と  
向井常博西九州大学長

※GP…「Good Practice」の略。文部科学省が各大学等の優れた取り組みを選定し支援などを行っている。

公式サイト <http://www.ccsap.saga-u.ac.jp>

すずめの学校(鍋島キャンパス)



部長  
かめだ みほ  
**亀田 美帆**  
医学部医学科4年



こんにちは!小児科病棟ボランティアサークル“すずめの学校”です。

すずめの学校は、医学部附属病院小児科病棟に入院する子どもたちと一緒に遊ぶ、というのがメインの活動です。病棟内にあるプレイルームでパルーンアートやボール遊びをしています。

最近、小児科病棟だけでなく、保育園や児童センターにも行ってきました。ここでは小児科病棟とは全然違った雰囲気を楽しみながら、同時に多くのことを学ぶことができました。

1年の中で最も大きい活動としては、学祭で出店する“すずめ喫茶(子ども向け喫茶店)”です。学祭には、近隣の小中学生がたくさん訪れます。そんな子どもたちのために憩いの場を提供しようと始まったのが、この“すずめ喫茶”です。来てくれた子どもたちには、無償でお菓子とジュースを提供し、一緒に遊んだり、荷物を預かってあげたりしています。毎年、多くの子どもたちが遊びに来てくれ、近隣の子どものための良き交流の場となっております。もちろん、大人の方も大歓迎です。

これからも、子どもたちの役に立てるように頑張っていきたいと思いますので、応援よろしくをお願いします。



女子バレーボール部(本庄キャンパス)



キャプテン  
ほんだ なつこ  
**本田 奈津子**  
文化教育学部人間環境課程4年



こんにちは、佐賀大学女子バレーボール部です。

現在、4年生5人、3年生5人、2年生5人、1年生3人、計18人で活動しています。月曜以外の週6日、池上寿伸先生ご指導の下、佐賀大学の体育館で練習を行っています。

毎年、九州大学春季・秋季リーグ戦や、西日本バレーボール大学選手権大会、全日本バレーボール大学女子選手権大会に出場しており、平成25年度の九州大学春季リーグ戦では1部7位、秋季リーグ戦では1部8位、西日本バレーボール大学選手権大会ではベスト32という結果を残しました。また、春休みや夏休みを利用して宮崎県や福岡県で開催される合宿に参加したり、毎年唐津で行われる佐賀県ビーチバレー大会に出場したりと1年間を通して、充実した部活動生活を送っています。

他大学のバレーボール部に比べると部員は少ないですが、その分団結力は強く、学年関わらず仲も良く、楽しい雰囲気練習し、試合に臨んでいます。

これからも各大会上位進出目指して、部員全員で支え合いながら頑張っていきますので、応援よろしくをお願いします!



佐賀大学校友会「校友間交流支援事業」

# 佐賀大学校友の集い in ソウルを開催しました

海外版ホームカミングデー3回目となる今回は、農学部農業版MOTプログラム<sup>※</sup>の韓国研修とタイアップし企画しました。

海外の協定校と佐賀大学との連携の強化、並びに韓国在住の卒業生や留学生が一堂に会して佐賀大学関係者のネットワーク構築に繋げることを目的として、佐賀大学校友会の主催で、平成25年8月22日、韓国・ソウル市において実施しました。

本学卒業生、帰国留学生、佐賀大学で教育研究後帰国した方、国民大学の教職員や学生など佐賀大学に関係のある方々総勢48名が参加。和やかな雰囲気の中、在学当時の昔話や初対面の方々との名刺交換・情報交換などが活発に行われ、この会を機に韓国国内で

再び集まる会を計画するなどの話も出て、盛会のうちに開催することができました。

※農業版MOTプログラム…大学院農学研究科特別の課程「農業技術経営管理士(MOT)」育成講座



参加者の様子



ソウルに集まった佐賀大学に関わりのある皆様



参加者の様子

学生さん必見! 「課外活動等支援金」「緊急支援奨学金」「ボランティア活動援助金」「国際交流奨励金」「海外派遣奨励金」を実施しています。

支援事業の詳細については、佐賀大学校友会事務局までお問い合わせください。佐賀大学校友会HPに実績を公表していますので、併せてご覧ください。

佐賀大学校友会では、会員に  
なっただけの方を募集しています!!

【問い合わせ先】

佐賀大学校友会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町1 (国立大学法人佐賀大学 本部3階)

電話 0952-28-8390

(月曜日から金曜日 8:30~17:15[祝日は除く])

ホームページURL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>

会費

- 正会員(個人) 20,000円(終身会員会費)  
2,000円(年会費) ※2万円に達した場合は、終身会員になります。
- 賛助会員(団体に限りです)  
1口 50,000円

払込方法

- 現金又は郵便局振込にてお願いいたします。  
・現金の場合は、佐賀大学校友会事務局にて受領いたします。  
・郵便局の場合は、振替口座/01760-0-49425  
振替名義/佐賀大学校友会  
(振込料金は校友会で負担いたします。)

佐賀大学の公式マスコットキャラクター「カッチーくん」も参加!

# キットカット 受験生応援キャンペーン 2014



「きっと勝つ!」と受験生のお守りとしても人気の「キットカット」をブランド商品とするネスレ日本株式会社が、これからの受験シーズンに向けて全国の15大学と連携し「キットカット受験生応援キャンペーン」を展開しています。これに本学のマスコットキャラクター「カッチーくん」も一役買って全国デビュー!「キット、サクサクよ。」をメッセージに、キットカットの受験生応援商品パッケージに登場するほか、本学もカッチーくんと一緒に、センター試験当日までのさまざまなキャンペーンを通して、受験生の皆さんにエールを送ります。

特に「カッチー=勝ち」という呼び名は、縁起もよく、受験生にとって励みになるのではないのでしょうか。これからもカッチーくん共々、本学の広報活動にご注目ください!

キットカットURL ▶ <http://www.nestle.jp/brand/kit/juken2014/>

カッチーくんプロフィール	名前	カッチーくん
	性別	オス
	誕生日	2月29日
	年齢	ひみつ
	すきなもの	さがほのか(いちご)
	苦手なもの	グリーンピース、うめぼし
	性格	心優しく、天然系。でも好奇心は鳥一倍。

国立大学法人佐賀大学の役職員の報酬・給与等について(概要)

国立大学法人佐賀大学では、役員の報酬等及び職員の給与の水準を公表しております。公表内容につきましては、「佐賀大学ホームページ<http://www.saga-u.ac.jp>」をご覧ください。または、人事課給与担当で文書資料を用意しておりますので、ご連絡ください。(TEL:0952-28-8125)  
なお、公表内容の概要は次のとおりです。

1. 国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標(平成24年度)

職員の区分	对国家公務員 <sup>※1</sup>	対他の国立大学法人等 <sup>※2</sup>
事務・技術職員	80.9	90.1
医療職員(病院看護師)	104.3	97.1
教育職員(大学教員)	(参考) 93.2	92.3

※1 国家公務員の給与水準を100として算出  
※2 すべての国立大学法人を一つの法人とみなした場合の給与水準を100として算出

2. 総人件費について

区分	当年度(平成24年度)		前年度(平成23年度)		比較増△減		中期目標期間開始時(平成22年度)からの増△減	
	千円	(%)	千円	(%)	千円	(%)	千円	(%)
給与・報酬等支給総額(A)	10,045,393		10,733,181		△ 687,788	(▲6.4%)	▲ 657,638	(▲6.1%)
退職手当支給額(B)	1,225,751		1,122,527		103,224	( 9.2%)	531,974	( 76.7%)
非常勤役員等給与(C)	3,841,880		3,291,869		550,011	( 16.7%)	802,892	( 26.4%)
福利厚生費(D)	1,773,109		1,769,429		3,680	( 0.2%)	111,987	( 6.7%)
最広義人件費(A+B+C+D)	16,886,133		16,917,006		△ 30,873	(▲0.2%)	789,215	( 4.9%)

注:「非常勤役員等給与」においては、寄附金、受託研究費その他競争的資金等により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、当法人の財務諸表附属明細書の「18 役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

## 編集後記

10月2日、佐賀大学美術館の開館式を行いました。総合大学としては、全国初の大学美術館です。本学の美術科は、全国的にも数少ない、通称「特美」と呼ばれる美術工芸に関しての高度な専門教員の養成機関として発足し、その伝統は脈々と引き継がれ、多くの優秀な人材を輩出してきました。近年も、これまで本誌で何度もご紹介してきましたように、教員のみならず学生も、全国レベルの展覧会で入賞を果たしています。文字通り本学の顔となる学科で、美術館は、そのような輝かしい歴史の結実と言えます。これからは、佐賀大学と言えば美術館と言われるように、本学のシンボルとして、地域の方々とともに、育てていきたいと思っています。

併せて、正門整備も行いました。「正門」と言っても、従来の重々しいイメージとは全く違った、アメリカなどの大学を思わせる開放的な雰囲気を作り上げました。

全面ガラス張りのモダンな美術館と開放的な正門ができたことで、本学の雰囲気は一転しました。是非、新しくなった佐賀大学へ足を運んでいただきたいと思います。

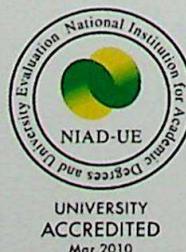
(広報室長 早瀬 博範)

## 佐賀大学メールマガジン登録受付中!!

読んで役立つ情報満載!!

登録は→ <http://www.saga-u.ac.jp/mailma/>

または [佐賀大学](#) [メルマガ](#) [検索](#)



作品名

# 「とりどり」

(第63回佐賀県美術展にて大賞受賞)

ますむら あおい

増村 葵 (文化教育学部美術・工芸課程3年 木工芸専攻)



## 【作者プロフィール】

1992年 熊本県長洲町出身  
2011年 佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程入学  
2013年 第63回佐賀県美術展 大賞

## 【作者コメント】

様々なとりの表情を漆で表現しました。  
漆という自然の素材を扱うことは難しくもりましたが、同時に独自の美しさも再認識しながら制作を行いました。  
色とりどりのとりたちの、多様な表情を感じていただければ幸いです。

